

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-321

(43) 公開日 平成8年(1996)1月9日

(51) Int. Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 4 C 25/00

Z

A 4 4 B 21/00

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-141304

(22) 出願日 平成6年(1994)6月23日

(71) 出願人 592205816

日高 雪子

宮崎県西都市右松3丁目16番地

(72) 発明者 日高 雪子

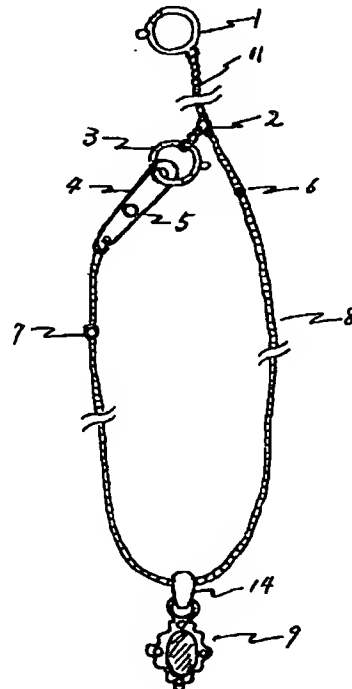
宮崎県西都市大字右松1790番地2

(54) 【発明の名称】 止め金具のズレ防止器具付きネックレス等装飾品

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 ネックレス等を装着した際に、ネックレス等を止める止め金具が体の動きによって不用意に首の前面(胸側)にずれるのを防止し、常にその止め金具のずれを首の真後ろにおさめる煩わしさをなくす。

【構成】 ネックレス等の止め金具または大きめのリングから更に3~5cm延ばした鎖11(または紐・ナイロン等の透明繊維)の先端に布または鎖を挟むことのできる器具1を装着して構成する。または既にあるネックレス等のアタッチメントとして用いるもので、3~5cmの鎖(または紐・ナイロン等の透明繊維)の両端に布または鎖を挟むことのできる器具を取り付けて構成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）の先端にズレ防止用止め器具を装着し、衣服と連結することを特徴としたネックレス等装飾品。

【請求項2】 請求項1記載の鎖の両端にズレ防止器具を設けたことを特徴とする装飾品のズレ防止器具アタッチメント。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はネックレス等装飾品のズレ防止に関するものである。

【0002】

【従来の技術】ネックレス等は止め金具を用いて装着しているが、この金具は体の働きで左右にズレがちであり、常に首の真後ろに安定させておくことは難しく、首の前面（胸側）にずり落ち見苦しかった。しかしこの金具を所定の位置に安定させておく方法については従来次の三方法があったに過ぎない。

1. ネckレス等の止め金具から15～16cmも延ばした鎖の先端に、飾りによる重りをつけてそれを後ろ（背中）に垂らして、ネックレス等の止め金具が前（胸側）にずれてくるのを防止する方法。（実開昭63-196213）

2. ネckレス等の中心部から左右にいくに従って材質の量を小さくし、（例えば真珠の珠の大きさを小さくする）中心部を重くすることによってズレを防止する方法。

3. ネckレス等装飾品の本体・鎖の中心部にペンダントのトップを差し込みズレを防止する方法。（実開平2-42515）

【0003】前記1の従来例では、例えば前屈姿勢をとった時には15～16cmの鎖と重りが背中より前面にずれることがある。またネックレス等とズレ防止金具の重さのバランスが悪いと、ネックレス等を背中に引っ張りすぎネックレス等の装飾品としての効果を少なくしていた。前記2では、ズレ防止の働きはするが前記したような一部のネックレスにしか有効ではない。前記3ではペンダントトップの重量が軽いものではその役目を果たせないばかりか、反ってペンダントトップが前中心よりずれた位置で止まってしまうことが多く見苦しい。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来のネックレスのズレ防止のためには前記したようにいくつか対策が採られていたが、不完全であって、女性のネックレス等の止め金具は体の動きに伴って常に移動するので、首の真後ろにきちっとおさまっておらず首の前面に（胸側）にずれてくる。従ってネックレス等を身につけている時はそのズレを度々気にし、止め金の位置を直さなければならないことに加え、ネックレス等のズレをたえず気にして位置を直す動作も大変見苦しい等の問題点があった。人が

2

どんな動作をしてもネックレス等の止め金具が胸側にずれることなく、首の真後ろの定位置に安定しており、正面から見てネックレス等のトップ飾りが常に前中心に安定していることが必要である。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するためネックレス等の止め金具3または大きめのリング2からさらに3～5cm延ばしたズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）の先端に布または鎖を挟むことのできるズレ防止用止め器具1を装着した。既にあるネックレス等にアタッチメントとして用いるズレ防止器具で3～5cmの鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）の両端にタグまたはネックレス等の止め金具を挟むことのできる器具をつけた。

【0006】

【作用】本発明は以上のような構成により、ネックレス等の装飾品の止め金具3は常に鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）およびズレ防止用止め金具1により着衣後ろ襟足中心にしっかりと止められているので、人のどんな動作によってもそこから動くことはなく課題で取りあげた全てのものを解決できる。

【0007】

【実施例】本発明の実施例について図に従って詳細に説明する。図1はネックレス等装飾品の止め金具3、受け金具4のズレを防止する器具を取り付けたネックレスを示す図で、3～5cmのズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）をネックレス等装飾品の本体8の大きめのリング2に連結し、その先端に布または鎖を挟むことのできるズレ防止用止め器具1を装着した。図4に示したようにこのズレ防止用止め器具1で着衣後ろ襟足中心に付いているタグ13を挟むか、タグ13をくぐらせてネックレス等の止め金具3の輪またはネックレス等装飾品の本体8あるいはズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）の一部を挟んで止める。図2はネックレス等のアタッチメントとして用いるもので、3～5cmのズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）の下端または上端に装着したズレ防止用止め器具12または10で、ネックレス等の止め金具3または同受け金具の穴5を挟んで止める。ズレ防止用止め器具10またはズレ防止用止め器具12で着衣後ろ襟足中心にあるタグ13を挟むか、タグをくぐらせてネックレス等の止め金具3の輪またはネックレス等装飾品の本体8あるいはアタッチメントのズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）の一部を挟んで止める。

【0008】着衣後ろ襟足中心のタグ13を挟む器具は従来使われていたネックレス等の止め金具でもいいし、図2のズレ防止用止め器具10に示した鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）を挟むことのできる挟む力の強いバネ式のものでもいい。図1、図2に示したものを手持ちのネックレス等を用いて数点作り、数カ月間使用し

てみた結果、一度もネックレス等の止め金具が定位置からずれることなく快適に過ごせ、その効果を十分に確かめることができた。

【0009】従来のネックレス等の止め金具ズレ防止方法は、いずれもある特定のものにしか利用できなかったが、本発明のネックレス等装飾品の止め金具ズレ防止器具はどんな種類のネックレス等装飾品にも利用でき、ネックレス等装飾品に取り付けられた3~5cmの鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）の先端に付いたズレ防止用止め器具1、10でしっかりタグ13を挟むかそれをくぐらせてあるのでタグ13またはズレ防止用鎖11（または紐・ナイロン等の透明繊維）が切れない限り襟足のところに止め金具3を安定させることができる。従ってズレ防止効果が確実に止め金具が首の前面（胸側）にずれてくることは決してない。また鎖（または紐・ナイロン等の透明繊維）には3~5cmの余裕があるので着衣後ろ襟足を必要以上に引っ張ることはなく、後ろ姿も自然でありズレ防止器具が取り付けられていることを感じさせない。またタグを挟む方法を探るかタグをくぐらせる方法を探るかはタグの大きさや使用者の夫々の状況により臨機応変に選択できる。

【0010】他の実施例として

細い金属のネックレスの場合、従来止め金具は小さなものでなければネックレス等とのバランスがくずれ、止め金具が首の前面（胸側）にずれる可能性が大きいので小さな止め金具が用いられてきたが、小さな止め金具は使用する時大変使いにくい欠点があった。しかし本発明のズレ防止器具付きネックレスであれば止め金具が首の前面（胸側）にずり落ちる心配がないので、取扱いやすい大きめの止め金具を用いることができる。従来のネックレス等は図1に示したように長さを調節するための大きめのリング6がネックレス等の止め金具3側の位置に付いてあり、本体の長さを調節するとき一旦この大きめのリング6を上記止め金具3にかけて更に受け金具4に止めなければならなかったので大変使い勝手が悪かった。だが本発明のズレ防止器具付きネックレスであればネックレス等の受け金具4側の位置に大きめのリング7を付けてあるので、長さ調節が必要な時には止め金具3を該リング7に止めても余った鎖が首の前面にずり落ちる心配がない。図3に示したように従来の長さ調節用の連続した大きめのリング16が受け金具4側にあるものは、該リング16の先端に大きめの珠飾り15が付いてあるのが一般的である。この珠飾り15の直径はペンダントトップ9を本体に吊るすリング14の直径より大きいので、一旦はめ込まれたペンダントトップは交換ができなかった。本発明のズレ防止用止め器具1、10を用いることにより大きめの珠飾りを必要としないのでペンダントトップ9は服装に依り自由に交換できる。また、ペンダントトップ9はネックレス本体8に固定されていないので、それ自身の重さで常に前面中心におさまってい

る。

【0011】ネックレス等製作時にこのズレ防止用止め器具を取り付けておく方法と、アタッチメントとして作ったものを使う方法とのどちらでも状況によって選ぶことができると共に、ネックレスだけでなくペンダントまたはプレスレット等にも利用できる。いずれにしても使用方法が簡単で確実な効果が得られる。またズレ防止器具の鎖の部分は、ネックレスと同質、同デザインのものでもいいし鎖に限らず紐・ナイロン等の透明繊維を用いることもできる。襟のない服の場合特にズレ防止器具の部分は後ろから見えることになるので、装飾品として強調したいときは目立つ材質とデザインを、目立たせたくない時はナイロン等の透明繊維を用いることでその目的を十分に果たすことができる。

【0012】

【発明の効果】以上述べたように本発明のズレ防止器具付きネックレス等装飾品を着用したり、または装飾品のズレ防止用止め器具アタッチメントを用いてネックレス等の止め金具3あるいはネックレス等装飾品の本体に止めることにより、衣服に連結してあるので身体の動きが激しくてもネックレス等の止め金具3がずれて胸側前面に移動することはない。女性の日常生活をより快適なものにすることができるのはもちろん、動きが激しくしかも美的要素を強く要求されるファッション界、また演劇、ミュージカル、オペラなど様々な分野で有効に利用できるなど、美的、心理的、精神的に幾多の有用な効果を提供できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】ズレ防止器具付きネックレス等装飾品要部の斜視図。

【図2】ネックレス等装飾品のズレ防止器具の斜視図。

【図3】従来の長さを自由に調節できる大きめのリングが連続して付いているネックレスとその先端にある大きめの珠飾り。

【図4】着衣後ろ襟足中心のタグに装着したネックレス等装飾品の斜視図。

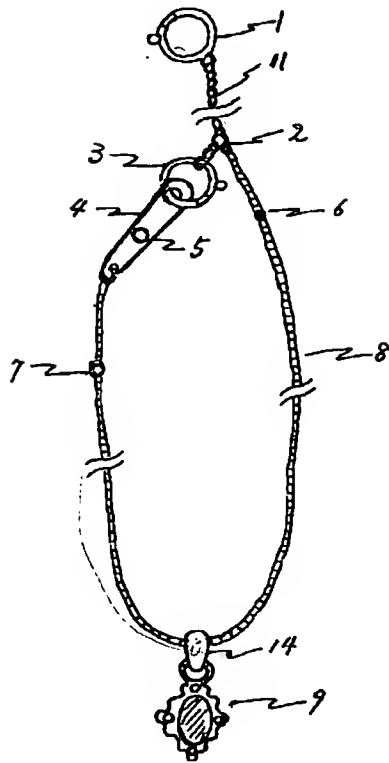
【符号の説明】

- 1、10、12 ズレ防止用止め器具
- 2 大きめのリング
- 3 ネckレス等の止め金具
- 4 ネckレス等の受け金具
- 5 ネckレス等の受け金具にあけたもう一個の穴（従来はあけてない）
- 6 長さ調節用の大きめのリングが従来あった位置
- 7 本発明による長さ調節用の大きめのリングの位置
- 8 ネckレス等装飾品の本体
- 9 ペンダントトップ
- 11 ズレ防止用鎖
- 13 タグ
- 14 ペンダントトップを本体に吊るすリング

15 大きめの珠飾り

16 長さ調節用の連続した大きめのリング

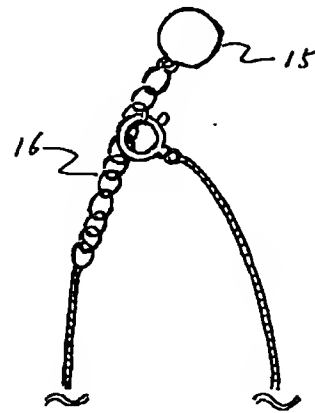
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

